

(振興局調整費)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	企画・県民生活班	新田 清季	0182-32-0594	被災地ボランティア活動支援事業	東日本大震災の被災地への継続的な支援が求められていることから、ボランティアに必要な装備品等を確保するとともに、NPO法人等に被災地等でのボランティア活動のコーディネート業務を委託し、被災地のボランティアニーズに係る情報収集、必要な場所への必要なボランティアの派遣を円滑、効果的に実施することにより、行政とNPO等が協働し、被災地の復興に寄与することを目的とする。	2,700,839	直営+委託	・被災地ボランティア活動支援業務委託(委託先:特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター) 委託期間: H23年5月20日~11月10日 委託内容:被災地でのボランティア活動のコーディネート等 ・被災地へのボランティア派遣の実績 派遣期間: H23年6月24日~10月21日 派遣人員: 43チーム 480人 派遣先: 岩手県大船渡市及び陸前高田市 ボランティア内容: がれきの片付け、家の中の泥だし等	平鹿地域振興局総務企画部、特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター	東日本大震災被災地でのボランティア活動をする一般県民	平成23年5月16日	ボランティア活動のコーディネートを行った他、装備品の支給及び貸与、ボランティア保険加入の支援等を行い、ボランティアに参加しやすくしたことで、予定人員を上回る参加があり、被災地の復興に貢献できたものと思われる。 また、ボランティアに参加者からは、「参加して良かった。」や「今後もボランティアを継続したい。」との声もあり、災害ボランティア意識の向上につながったものと思われる。	本事業により被災地でのボランティア活動に参加した者の災害ボランティアへの意識は向上したものと考えられるが、それをいかに地域に広めていき継続したボランティア活動に結びつけるかが課題である。
						平成23年5月~平成23年11月							平成24年10月31日		
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	企画・県民生活班	喜多 智巳	0182-32-0594	横手コミュニティFMを利用した情報発信	平成23年4月1日に、横手コミュニティFM「横手かまくらFM」が開局したことに伴い、住民に密着した地域メディアと連携し各種事業・イベントなどについて情報発信することにより、地域振興局独自の広報活動の一層の拡充を図る。	211,050	直営	コミュニティFMのスポットCMを利用した広報の実施 回数: 14件(67回) 【内容】 ・県税部:自動車税の納付について 他 ・建設部:県道横手大森大内線のバイパス開通について ・総務企画部:被災地救援ボランティア募集について 他 ・農林部:新築木造住宅への助成について 他 ・福祉環境部:健康ひらか講演会について 他	平鹿地域振興局総務企画部	一般県民	平成23年5月16日	地域に密着しているコミュニティFMを利用することにより、よりリアルタイムで広域に情報を発信することができた。有料で放送できる回数は限られているが、無料分と組み合わせで放送回数を増やしてもらうことでより多くの情報を提供でき、積極的な広報活動となったものと思われる。	今年度は内容によつての有料・無料の区別はしていなかったため、部により情報量に差ができた。有料分としてとられず、情報があれば無料枠を十分に活用し、幅広い内容で情報提供していきたい。コミュニティFM側でも、道路情報など必要な情報もあるため、イベントだけでなく生活全般に関する情報についても、より多く提供していく。
						平成23年6月~平成24年3月							平成24年10月31日		
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	企画・県民生活班	喜多 智巳	0182-32-0594	県際交流事業	温泉や食文化等の共通資源の連携した情報発信のために、かつ、震災復興支援の意義を込め「いわて・あきた県境国取合戦2011」を開催し、歴史ある両県交流を若い世代に繋げ、幅広い分野における交流の契機とする。また、「平泉」の世界文化遺産への登録を機に、秀衡街道について、ガイドブックを増刷、配布し、当該地域に残る歴史と文化への理解を深めるとともに、地域に根ざした両県交流をより深め、若い世代に繋げる契機とする。	447,000	直営+負担金	①「いわて・あきた県境国取合戦2011」の開催 日時: H23年10月2日(日) 場所: 奥郷温泉郷特設会場 来客数: 約2,000名(主催者発表) ②秀衡街道ガイドブック(三訂版)の増刷 納期: 10月28日 2,500部 (岩手県と合わせ5,000部増刷)横手市にある北上線の駅や道の駅等に配架。また、岩手県を通じ平泉文化遺産センター等へ配架。	秋田県、岩手県、いわて・あきた県境国取合戦実行委員会	秋田、岩手県民のほか横手・北上・西和賀地域等への来訪者等	平成23年9月16日	県境国取合戦の来場者に対するアンケート結果から、来場者の満足度については概ね良好であったが、リピーターは回答者のうち15%あまりであった。また、平泉の世界文化遺産への登録の機を捉えた秀衡街道ガイドブックの改訂増刷は、平泉に関連する地域資源をアピールすることにより地域の歴史・文化への理解や交流人口の拡大に資するものと考えられる。	「いわて・あきた県境国取合戦」の開催により、マスコミ等を活用した温泉や食文化等の共通資源の他地域への情報発信を引き続き行い、今後も歴史ある両県交流を若い世代に繋げ、幅広い分野における交流の契機としたい。 会場が固定化(奥郷温泉)されている状況にあることから、秋田県側にもメリットが感じられるような工夫が必要である、との共通認識が岩手・秋田両県にある。24年度以降は、さらに地元がより主体性を持った形で県際交流を図れるよう支援していく。
						平成23年10月							平成24年10月31日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	加賀 功	森づくり推進課	林業振興班	工藤 純一	0182-32-9505	誰にでもできる林地残材の搬出実証事業	林地に残された間伐等で発生する林地残材(端材)は搬出しても採算が合わず林地に放置されているのが現状である。そこで、農林家等が手軽に取り組み、併せて少しでも収益につながるようなシンプルで低コストな省エネ搬出方法を開発し、そのノウハウを地域の農林家へ広く普及する。	257,590	直営+委託	・搬出実証用簡易設備「修羅iido」の製作及び架設について、平鹿地区林業後継者協議会と委託契約。 ・実証調査 H23年11月29～30日に横手市山内地区の間伐林分で実施。調査内容については、H24年2月7日に県内の林業関係者104名が参加して行われた「秋田県林業技術交換研修会」で発表。	平鹿地域振興局農林部森づくり推進課	平鹿地域振興局農林部森づくり推進課林業普及指導員、平鹿地区林業後継者協議会	平成23年9月29日	実証調査では「修羅iido」の耐久性が証明されたほか、作業時間の目安や販売収入が把握できたことで、十分実用可能なことが証明された。また、調査内容の発表においては県内の林業関係者から多くの質問があり、関心の高さが伺えた。	今後の展開としては、さらに集材方法に改良を加え、より広範囲な集材方法の可能性を見出し、地域の農林家への普及を最終目標として継続的に取り組んで行く。
						平成23年10月～平成24年2月							平成24年10月31日		
福祉環境部	伊藤 善信	企画福祉課	調整・障害者班	伊藤 毅	0182-45-6137	震災避難者交流・健康相談事業	東日本大震災で被災し平鹿地域振興局管内に避難している方は、被災から半年が経過し、避難生活の長期化に伴い、被災直後とは異なる心身の不安(被災経験に起因する心的トラウマやPTSD等)を抱えている方もいると考えられる。 これら避難者に対して、避難者同士の交流の場を設けるとともに、健康相談等を実施し、心身のリフレッシュと、より充実した避難生活を送れるよう事業を実施する。	431,146	直営	○実施時期 1回目 H23年10月25日 2回目 H24年2月16日 ○実施場所 1回目 横手市交流センター 2回目 鶴が池荘ほか ○実施内容 1回目：健康相談、交流、佐藤貞勝氏ギター弾き語り&トーク、焼きそば調理実習&試食 2回目：健康相談、避難者同士の交流、かまくら・ぼんでん見学、プラボー中谷マジックショー、温泉入浴、地場産食材を使った料理の試食	平鹿地域振興局福祉環境部	東日本大震災で、平鹿管内に避難している方。	平成23年9月29日	参加者アンケートを実施した結果、「このような避難者同士の交流の機会が欲しかった」、「リラックス出来た。」等の回答があり、相当の効果があったと考える。参加者の満足度も非常に高かった。	避難者が引き続き管内に居住し続けるのか今後の生活見通しは不明だが、居住している限り相当のニーズがあると思われる。
						平成23年10月～平成24年2月							平成24年10月31日		
福祉環境部	伊藤 善信	健康予防課	健康・予防班	大須賀貴人	0182-32-4005	地域医療連携推進事業	県では医療保健福祉計画に、4疾病5事業(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、へき地医療)について「効率的で質の高い」医療を提供することを旨として地域医療連携を推進することとしている。 本事業では地域医療連携における問題点や課題、地域住民の受診行動等について把握すると共に、医療従事者、住民、行政関係者一体となり、地域医療連携を推進していくことを目的とする。	229,275	直営	1 地域医療連携担当者会議 ①日時：H23年12月1日 内容：4疾病の医療連携時における患者の動向について ②日時：H24年1月24日 内容：介護老人保健施設、特別養護老人ホームへの入所の現状と課題について 2 地域医療を考えるシンポジウム 日時：H24年3月4日 会場：横手セントラルホテル 内容：基調講演「協働で取り組む地域医療～医療者・住民・行政の役割」 講師：自治医科大学地域医療学センター長 梶井英治氏 パネルディスカッション「平鹿地域の地域医療の推進に向けて」 3 アンケート調査 対象者：一般住民 調査の方法：研修会、献血会場、乳幼児健診会場で実施(調査件数：221件)	平鹿地域振興局福祉環境部	医療関係者、行政関係者、地域住民等	平成23年10月4日	地域医療連携担当者会議を通じ、病院、施設等の担当者の協議の場を設けることにより、地域の現状・課題等について共有を図ることができた。また、地域医療を考えるシンポジウムを通じ、効果的で適切な地域医療を確保するために医療従事者、行政、住民がそれぞれが担うべき役割等を共有することができた。	本地域では平鹿総合病院等の急性期病床を持つ医療機関入院患者の次の受け皿となる療養病床又は介護施設等の利用率が高く、医療連携の流れに支障を来している状況であること、また、特別養護老人ホーム等の介護施設で医療依存度の高い人を多く受け入れると労働環境が悪化し、介護職員の離職率が高い中、さらに高くなってしまふなどの背景も見られた。 今後はより広域的な連携を模索すると共に、施設依存度を下げよう、在宅医療の推進等の取り組みを検討していく。また、アンケート調査を活かし、住民啓発や医療体制のあり方について検討していく。
						平成23年2月							平成24年10月31日		